

乳腺内分泌外科(選択)

研修科	乳腺内分泌外科(選択)		
責任者	教授	菰池 佳史	
指導医数	1	名	
研修期間	8	週間	～ 12 週間
受入可能人数	1	名	
一般目標 (GIO)	<p>乳腺・内分泌外科の専門領域における基本的な診療能力を習得する。 また、乳腺・内分泌外科症例を通じて、医師として共通して習得すべき以下の技術・能力・態度を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師としての倫理観・責任感・使命感をもって行動できる。 2. プライマリ・ケアを実践できる基本的診療能力(知識、技能、態度)を身につける。 3. 医療療における安全管理の方策を理解し、患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行できる。 4. 医療チームの構成員としての医師の役割を理解し、他のメンバーと協調して問題解決にあたることができる。 5. 患者を全人的に理解し、患者・患者家族と良好な人間関係を確立し、予防を含む包括的なケアを提供できる。 6. 医師としての社会的使命を自覚し、有限である医療資源を公平に配分し、効率的に使用することができる。 7. 世界の医学研究の動向を理解し、最新の医学知識を修得するための英語能力を獲得し、国際保健の向上に貢献できる。 8. 常に自らを省みて医学の研鑽と学習に励み、自己の向上に努める。 9. 臨床活動の改善を目指し、見出した問題点の意義を検証し、研究課題を設定できる。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳癌、甲状腺癌、原発性副甲状腺機能亢進症の症状病態を理解する。 2. 専門的観点から患者および家族背景を理解した上で、病態を把握し診察とカルテ記載を行う。 3. 専門的診療に必要な検査と治療計画を立案し、指導医とともに実行する。 4. 検査・治療結果を基に新たな検査・治療計画を立案し指導医と共に実行する。 5. 手術においては正しい手順に基づき、切開、縫合、結紮など基本的外科手技を指導医監督下に自分自身で行う。 6. 局所麻酔による小手術や、全身麻酔下に難易度の低い乳腺・内分泌疾患の手術を指導医とともに執刀し、手術手技を習得する。 7. 乳腺・内分泌疾患患者に特徴的な周術期管理を行うとともに、外科の一員として広く基本的な周術期患者管理を理解する。 8. 進行再発乳癌の病態生理を把握し、病態に合わせた全身管理を行う。 9. 乳腺内分泌チーム医療の一員として患者や家族を理解し多職種間の連携を行う。 		

<p>方略 (LS)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳腺・内分泌疾患について専門書や文献から知識を習得する。 2. 専門的診察手技を専門書や指導医のもと習得する。 3. 乳癌の初診患者、再診患者の診療を指導医の指導のもとに研修する。 4. 病棟においては、乳腺疾患の術後管理だけでなく、他疾患の術後の一般的な経過を理解する。 5. マンモグラフィ、乳腺エコーについて、ガイドラインに準拠した読影法を習得する。 6. エコーガイド下の乳腺針生検を、指導医の指導のもとに行う。 7. 手術手技においてはドライラボによる自己学習や臨床現場での指導医の実技指導により習得する。 8. 主治医となり症例カンファレンス、他科との合同カンファレンスにおいてディスカッションできるように準備し、主体的に発言・討論することにより疾患の理解を深め知識を習得する。 9. 経験した症例から院内外の研究会、学会において症例発表などの学術は発表を行い、準備から発表を通しより多くの知識、より新しい知識を得る。
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価(フィードバック)を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <p>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価</p> <p>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与</p> <p>A-2. 利他的な態度</p> <p>A-3. 人間性の尊重</p> <p>A-4. 自らを高める姿勢</p> <p>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価</p> <p>B-1. 医学・医療における倫理性</p> <p>B-2. 医学知識と問題対応能力</p> <p>B-3. 診療技能と患者ケア</p> <p>B-4. コミュニケーション能力</p> <p>B-5. チーム医療の実践</p> <p>B-6. 医療の質と安全の管理</p> <p>B-7. 社会における医療の実践</p> <p>B-8. 科学的探究</p> <p>B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価</p> <p>C-1. 一般外来診療</p> <p>C-2. 病棟診療</p> <p>C-3. 初期救急対応</p> <p>C-4. 地域医療</p>
<p>責任者からの一言</p>	<p>乳腺内分泌外科疾患は高度な専門性が要求される領域であるが、外科の基本的診療法や基本的手技も学べる分野でもある。さらに手術方法の決定だけでなく、診断や術後治療方針決定、再発後治療も含めると、他科領域・他職種との関連が深い分野でもある。進行再発乳癌においては、呼吸・循環器系や中枢神経系の症状を有する場合もあり、全身管理の知識も必要となる。1年次の外科研修から専門性に踏み込んだ内容を研修することで、一人の患者を総合的・包括的に診療する考え方が身につき、医師としての技量を上げることができる。さらに基礎・臨床研究のさかんな分野であるから、最新のエビデンスの収集と、それをいかに実臨床に適用するかを学んで欲しい。本研修を通じて、将来自分の進むべき医師像が見えてくると確信する。</p>